

基本計画の骨格(案)

市民まちづくり活動の今後と市民まちづくり活動を支える総合的な環境づくり

参加する市民の側から

多くの市民によるまちづくりへの参加

- ①より多くの市民のまちづくりへの参加「みんなで担うまち・札幌の実現」
- ②多様な参加のスタイルの実現(親子、家族、知人同士での参加など、生活スタイルに応じた参加)
- ③気軽に楽しみながら参加できるように(肩肘張らずに参加できるように)
- ④市民と団体がつながる(市民が団体を応援、市民と団体が支え合う関係づくり)

多くの市民が主体的にまちづくりに参加できる環境づくり

- ①市民がまちづくりの重要性について理解し、関心を持っていくような取組の実施
- ②個々人の生活や諸事情に合わせた参加を受け入れる仕組みづくり
- ③気軽に楽しみながら参加できる機会の提供
- ④市民と団体が交流する機会の設定<市民と団体が交流→市民が団体に参加>という流れを促進

- 1)市民に対する効果的な情報提供
 - テーマ別の活動に関する情報提供など
 - 気軽にできるボランティアを含めた多様なボランティア情報の提供
- 2)団体自らの市民向けPRへの支援
 - 団体の広報力の向上のための講座の実施
 - 団体が行なう情報発信への手助け
- 3)市民がまちづくりに関心をもつことができる取組の実施
 - まちづくりへの参加者を増やすためのきっかけ事業(まちづくりの面白さや魅力の発見)
 - 都会での匿名性を保ちつつ気軽に参加できるボランティア活動の仕掛けづくり
 - 主に団塊の世代向けの新たな活動の場づくり(楽しみながらできること)
 - 子どもが主体的に参加できるまちづくり事業、札幌への誇りが持てる体験型学習事業(教育的視点が必要)
- 4)市民と団体が出会い・交流できる取組の実施
- 5)地域の多様な交流サロン活発化のための支援
 - 市民同士がダイナミックに交流し札幌の未来を展望したり新たなビジネス展開につながるようなサロンの創出

活動する団体等の側から

多種多様な市民まちづくり活動の充実

- ①様々な団体の活動の活発化
- ②まちづくりの担い手の叢生
- ③企業の社会貢献活動の広がり

自立的な市民まちづくり活動の広がり促進

- ①-1様々な活動主体に対する総合的な情報支援
- ①-2 活動の場に関する支援の充実
- ①-3 財政的な支援の拡充
- ②まちづくりの担い手の総合的・段階的な育成支援
- ③企業市民活動の普及・促進

- ①-1総合的な情報発信
- ①-2公共・民間施設の有効活用
- ①-3さぼーとほっと基金のメニューの多様化
- ②活動主体の種類・活動段階に応じた育成支援
 - 気軽に楽しみながら参加できる人材育成プログラムの開発(とくに団塊の世代向け)
 - 市民まちづくり活動促進のための共通講座の開設及び類似・関連講座事業の体系化
 - まちづくり講座の参加者を地域の活動につなぐ
 - コーディネーターの育成事業(分野共通の育成講座、長期的なプログラム、企業の参加導入、地域への架橋)
- ③企業の社会貢献活動の促進諸施策の実施
 - まちづくりへの企業の参加促進

市民まちづくり活動団体間の連携活発化

- ①団体間の連携によるまちづくりへの相乗効果の産出
- ②団体間の連携の輪の広がりによる市民参加の促進
- ③市民まちづくり活動と行政の連携
- ④連携のためのコーディネーターの創出

まちづくりを行なう様々な主体の連携促進

- ①活動団体間、団体と市民、団体と企業、団体と行政といった各主体間の連携の促進(交流、連携の機会の設定など)
- ②市民協働の促進
- ③諸主体の連携による重層的な市民まちづくりネットワークを目指して

- ①-1ITを活用した情報交換や交流を図れる仕組み
- ①-2市民が団体を知り、団体同士、団体と企業が出会い、交流する場の設定
- ①-3主催各種イベントでのまちづくり活動PRの実施
- ①-4市民が団体の活動に体験的に触れられる機会
- ②団体間、団体と行政の協働事例普及
 - NPOと行政の協働事業の実施
 - 市民が主体的に運営していく組織創出の促進
- ③重層的なまちづくりネットワーク形成のための環境づくり
 - 地域におけるまちづくりコーディネーター機能の拡充
 - 協働の担当窓口の設置

自主的・自律的なまちづくり活動の拡大と連携の展開による地域力の強化

市民が市民の活動を支えるまちづくりの札幌スタイルの構築

計画の推進に当たり

- ①庁内の推進体制の整備
- ②計画の進行管理、検証、フィードバック

- ①職員の意識醸成
 - 市民と職員が一緒に学び合う場の設定
- ②関係部局間の連携
- ③まちづくりセンターの活用
- 計画の進行管理、検証、検証結果のフィードバックの実施

活動を支える市民と、市民ニーズに応え活動する団体が相互のコミュニケーションを取りながら、互いに意識を高めていき、同時にその実践と活動の輪を広げていくことにより、結果として札幌ならではの躍動的で個性あふれるまちが実現する。⇒市民及び団体による自由で自発的な活動の中に、お互いへの思いやりが介在することで、他人にやさしいまち・札幌が具現化

